

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 8 日現在

機関番号：38001

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370537

研究課題名(和文) 琉球民謡語彙のデータベース化

研究課題名(英文) The Construction and Analysis of a Database of Vocabularies in Ryukyuan
Folksongs

研究代表者

西岡 敏 (NISHIOKA, Satoshi)

沖縄国際大学・総合文化学部・教授

研究者番号：30389613

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、琉球民謡の中で使用されている歌詞を単語ごとにデータベース化することを目的とした。琉球民謡の歌詞は、琉球列島各地の多様な方言を基盤として成立している。沖縄民謡・宮古民謡・八重山民謡・奄美民謡などといった各地の民謡に、どのような方言語彙が現れるのか、歌謡独特の表現がないかどうか等を考察した。その結果、琉球民謡語彙には、口語の方言とは異なる文語的なものや、歌謡語に特徴的に現れる用法のあることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：The object of this research was to build and analyze a database of the lyrics used in Ryukyuan folksongs. The lyrics of Ryukyuan folksongs are based on various languages found in the Ryukyu Archipelago. I categorized the vocabulary by language, and whether or not there were expressions peculiar to the lyrics of the Ryukyuan folksongs of various regions, such as Okinawa, Miyako, Yaeyama and Amami. It became clear from the research that the vocabularies of Ryukyuan folksongs have some literary elements that differ from that of the spoken languages and have usage that indicates characteristics found in lyric languages.

研究分野：言語学・文学

キーワード：琉球民謡 語彙 文語 口語 歌謡語 日常語

1. 研究開始当初の背景

(1) 琉球列島地域には、「奄美語」「国頭語」「沖縄語」「宮古語」「八重山語」「与那国語」といった6つの「危機言語」があり、その再活性化のため、現在、様々な方策が検討されている。これら琉球諸語では、現在、各地域における方言の記述的研究が進んでいるが、それらを基盤として成立した琉球民謡の語彙についても網羅的な研究が必要であると考えられている。

(2) 言語の分類と民謡の分類が、完全に一致をみるわけではない。琉球民謡は、琉球列島に暮らす人々によって伝統的に受け継がれてきた歌謡と見ることができ、日常会話で使われる言葉とは異なる側面も見いだせる。「歌謡語(文語)」と「日常語(口語)」との関係を明らかにすることは琉球諸語の研究に大きな寄与となるであろう。

2. 研究の目的

(1) 本研究では、琉球諸語による文芸作品とも言える琉球民謡に焦点を当て、その歌謡で使用されている語彙を網羅的に集めてデータベース化することを目的とする。

(2) 琉球諸語の中の言わば「歌謡語」について、正確な音韻表記、日本語訳、品詞分析、文法情報等を加えて、索引化する。聞き取り調査だけでは分からない琉球諸語の要素を顕在化させ、適切な分析を加えることにより、琉球語研究への更なる寄与をめざす。

3. 研究の方法

(1) 琉球独自の楽譜で歌詞の記載がある工工四(くんくんしー)資料、その他、歌詞資料などを収集し、整理する。工工四(くんくんしー)が用いられていない奄美民謡については『奄美民謡総覧』(2011年、南方新社)等を参照する。琉球の各地域において、現在でも盛んに歌われる、よく知られた歌詞を中心に収集を行う。

(2) 地域ごとの整理を行う。「奄美民謡」「沖縄民謡」「宮古民謡」「八重山民謡」のそれぞれにおいて、語彙一覧を作成する。また、歌詞の語彙における互いの類似性および相違性を明らかにして、関連性を整理することも念頭に置く。

(3) 琉球民謡語彙の索引化を行う。琉球民謡の歌詞を単語ごとに分解し、動詞・形容詞・助動詞については活用形なども示し、その終止形(辞書形)も提示する。統一的な用語によって分析・整理するようにする。入力過程で、単語の切り方の検証、日本語訳、品詞分類、活用形分類の検証および修正を行う。

(4) 各地域語のコンサルタントに対して、語彙の正確な発音および未詳語彙の解説をし

てもらい、琉球諸語の記録として留める。

(5) 琉球民謡の文字表記の面についても研究を進める。琉球民謡における漢字かな交じり表記から、当て漢字の抽出を行い、琉球独自の「音読み」「訓読み」「熟字訓」の実態を探る。

(6) 分析対象となる琉球民謡語彙を実際の音声とリンクさせて、歌詞データのKWIC索引のみならず、歌謡音声データのKWIC索引を作成し、琉球民謡に関心のある研究者・一般市民への便宜を図る。

4. 研究成果

(1) 琉球民謡には、文語的な語彙も数多く存在することが分かった。例えば、「～を」に相当する格助詞「ユ」は、日常の沖縄語には出てこない要素であるが、沖縄民謡の歌詞には何度も現れる。「汗水を流して働く人」は、日常の沖縄語(口語)では「アシミジ ナガチ ハタラチュル ッチュ」であるが、歌謡の沖縄語(文語)では「アシミジユ ナガチ ハタラチュル フィトゥ」である。これには琉歌形式という定型の音数律が深く関わっている。語形を定型の音数律に合わせようすることから、文語的な「ユ」の使用が許容されると言える。「ユ」は宮古語や八重山語などの南琉球語では、文語のみならず、口語としても用いられる形式となっており(特に宮古語)、歌謡語の中に方言圏論的な分布を見出せると言うこともできよう。

(2) 音韻変化の有無によって、歌詞における口語性と文語性を量ることも可能である。例えば、日常の沖縄語(本島中南部方言)では、「～は」に相当する係助詞「ヤ」は、前に来る要素の名詞と融合して音変化するけれども、沖縄民謡では融合せずに、「名詞+ヤ」で無変化となることが多い。ただし、いくつかの沖縄民謡では、「名詞+ヤ」が融合している場合も見られ、「掛け合い」などの口語性を志向する民謡では、文語的な表現を回避する傾向も見られる。同様の文語性と口語性に対立する現象は、未然形条件形(未然形+バ:ア段長音)や已然形条件形(已然形+バ:エ段長音)にも見られる。

(3) 琉球民謡の歌詞では、音韻自体にも日常語(口語)の特徴が現れない場合がある。南琉球語では、八行音がp音で出現することが良く知られているが、八重山民謡や宮古民謡では、八行音の語彙であるにもかかわらず、p音で出現せずに、h音で発音するケースも見受けられる。地名などの固有名詞に、その傾向が多く見られる。また、沖縄民謡では、日常語の変化と過程と同じく、F音の発音がほとんど見えかかっており、文語であってもh音化の傾向が強く見られることが分かった。

(4) 琉球民謡の歌詞では、口語ではあまり認められない文法的現象も許容される。例えば、「飲み」、「笑い」、「など」といった連用形中止用法は、沖縄語では「ヌミ」、「ワライ」、「など」という語形になるが、口語ではほとんど用いられず、テ形の「ヌデイ、(飲んで、)」「ワラテイ、(笑って、)」と表現されることが多い。ところが、沖縄民謡では、「ヌミ」、「ワライ」といった連用形中止用法も盛んに用いられている。特に、「ウチワライワライ、(うち笑い笑い、)」といった畳語的表現は、沖縄民謡の中に数多く見出すことができる。

(5) 沖縄民謡では、男女間において敬語の使われ方に待遇差と言うべきものが見られる。女性から男性に対しては敬語が使われる一方、男性から女性に対しては敬語が使用されない。近代琉球における男女の社会的地位がいかに見なされていたかが推察される。また、同じ家族内においても、子どもから親に対しては敬語が使われている。琉球諸語の絶対敬語的な正確を反映させたものと考えられる。

(6) 八重山歌謡においても、沖縄民謡や琉歌に見られるように、音数律のために語形を調節することが見出された。例えば、「生まれる」という語彙には、「ウマリルン」と「マリルン」という二つの語形があり、語頭に「ウ」がある形とない形とがある。口語(日常語)では「マリルン」であるが、「ウ」が脱落する以前の文語(歌謡語)の形「ウマリルン」を用いることによって、八重山歌謡の音数律に適合させるという現象が見られた。

(7) 奄美民謡では、沖縄民謡と共通する語彙的特徴がある一方で、奄美語らしい特徴も見出せる。特に、動詞活用については、例えば、「～リ」(あるいは「～イ」)で終わる終止形や、才段で終わる志向形など、奄美語の特徴を反映している部分も多い。また、過去形(連体形)の一部には、「～チャル」と「～シャル」という双方の形があり、地域ごとの方言差を表しているとも考えられる。

(8) 琉球民謡で「当て漢字」として使用されている漢字について、言語教育上の観点から難易度別に整理した。使用されている漢字はほぼ常用漢字内に収まっている。基本的ではあるが、琉球独自の語彙ほど、「琉訓」を生じさせている。例えば、「女」は、「沖縄訓」で「ムナグ」、「宮古訓」で「ミドウム」、「八重山訓」で「ミドーナ」などと訓ませている。また、それぞれの地域語ごとの「熟字訓」にも独特のものがある。

(9) 歌詞データの KWIC 索引および歌謡音声データの KWIC 索引については諸般の事情で完成させることができなかった。今後の課題である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 9 件)

西岡敏、言語資料「ペークー頓知話」二話 沖縄語首里方言による昔話、奄美沖縄民間文芸学、査読無、14 巻、2016、1-12

西岡敏、八重山歌謡における音数律と語形狭母音に関わる考察を中心に、沖縄芸術の科学、査読無、28 巻、2016、3-16

西岡敏、琉球芸能の詞章の P 音考、武蔵野文学、武蔵野文学、査読無、63 巻、2015、12-18

西岡敏、沖縄語首里方言の「やりもらい動詞」についての覚え書、沖縄国際大学日本語日本文学研究、査読無、37 巻、2015、55-61

西岡敏、研究ノート 沖縄民謡の語注試案(2)、査読無、沖縄国際大学日本語日本文学研究、査読無、36 巻、2015、1-16

西岡敏、研究ノート 沖縄民謡の語注試案(1)、沖縄国際大学日本語日本文学研究、査読無、35 巻、2015、1-23

西岡敏、琉歌の句末にくるラ変動詞融合の i 語尾について u i 語尾を中心に、沖縄文化、査読無、116 巻、2014、233-248

西岡敏、恩納村瀬良垣方言の動詞活用についての覚え書、査読有、33 巻、2014、1-14

西岡敏、琉球方言の敬語研究の展望、沖縄文化、査読無、114 巻、2013、33-47

〔学会発表〕(計 9 件)

西岡敏、琉球民謡に見るしまくとぅばの表現、沖縄国際大学 2016 年度うまんちゅ定例講座(しまくとぅばルネサンス) 2016 年 8 月 20 日、沖縄国際大学(沖縄県宜野湾市)

西岡敏、琉球諸語の「テ形」 文法化を中心に、沖縄言語研究センター(総会) 2016 年 7 月 2 日、琉球大学(沖縄県西原町)

西岡敏、沖縄語首里方言の記述文法 モダリティー、沖縄言語研究センター(総会) 2015 年 7 月 4 日、琉球大学(沖縄県西原町)

西岡敏、琉球歌謡資料における漢字仮名交じり表記について、奄美沖縄民間文芸学会、2014 年 9 月 22 日、沖縄国際大学(沖縄県宜野湾市)

NISHIOKA, Satoshi, The possibility of 'Orthography' for Ryukyuan Languages: Considering the Writing System from the View of Tradition, 危機言語財団第 18 回

沖縄大会、2014年9月18日、沖縄国際大学
(沖縄県宜野湾市)

西岡敏、琉球宮古方言の言語地理学的研究
から見えてくるもの、沖縄言語研究センター
(総会)、2014年7月5日、琉球大学(沖縄
県西原町)

西岡敏、首里方言の記述文法、沖縄言語研
究センター、2014年5月24日、琉球大学(沖
縄県西原町)

西岡敏、しまくとぅばと民話 過去・現
在・未来、しまくとぅばプロジェクト、2014
年5月10日、沖縄県立博物館美術館(沖縄
県那覇市)

西岡敏、恩納村瀬良垣方言の動詞活用と付
属要素、沖縄言語研究センター、2013年12
月7日、琉球大学(沖縄県西原町)

〔図書〕(計4件)

西岡敏・狩俣恵一・田場裕規・兼本敏・村
上陽子・黒澤亜里子・李イニッド・仲原穰・
中本謙・下地賀代子・大城朋子・石垣直・狩
俣繁久、編集工房東洋企画、しまくとぅばル
ネサンス、2017、412(1-2、225-265)

山里勝己・大城貞俊・吉川安一・照屋理・
西岡敏・小番達・小嶋洋輔・屋良健一郎、沖
縄タイムス社、文学と場所(名桜大学やんば
るブックレット)、2016、152(84-106)

恩河尚・萩尾俊章・崎原恒新・赤嶺政信・
久万田晋・かりまたしげひさ・西岡敏・田里
修・石原昌家、沖縄市役所、沖縄市史第3巻
資料編2民俗編 冊子編、2015、
228(166-187)

新垣勝弘・石垣直・上江洲薫・上原静・狩
俣恵一・田名真之・名嘉座元一・西岡敏・藤
波潔・前泊博盛・宮城邦治・宮森正樹、昭和
堂、大学的沖縄ガイド こだわりの歩き方、
2015、294(221-240、273-291)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

西岡 敏 (NISHIOKA, Satoshi)
沖縄国際大学・総合文化学部・教授
研究者番号：30389613

(4) 研究協力者

金城 絵里香 (KINJO, Erika)
与那城 実波 (YONASHIRO, Minami)
豊見本 美夢 (TOMIMOTO, Mimu)
白保 棕之 (SHIRAH0, Ryono)